

萬鉄五郎と土沢

《南画の系譜》

橋本雪蕉、菊池黙堂、菊池素香、萬鉄人（雲樵）

萬鉄五郎記念美術館開館40周年



萬鉄五郎《蓬萊仙閣圖》紙本着色 1925年 萬鉄五郎記念美術館蔵

令和6年
4月28日 [日]～
6月30日 [日]

開館時間
8時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日

月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日に休館）

主催／会場

萬鉄五郎記念美術館

岩手県花巻市東和町土沢5区1-3-5番地 TEL0198-42-4402 FAX0198-42-4405

入館料

一般	/ 500 (450) 円
高校・学生	/ 300 (250) 円
小学・中学生	/ 200 (150) 円

* () 内は20名以上の団体料金

関連行事

第44回萬鉄五郎祭

日時】5月4日 [日] 14時～14時30分

土澤アートクラフトフェア 2024春

日時】5月4日 [日]～5日 [日]

同時開催

Iwate ロンチンボラリーアート vol.13-1

小原馨展

会期】4月27日 [日]～6月30日 [日]

萬鉄五郎と土沢

橋本雪蕉、菊池黙堂、菊池素香、萬鉄人（雲樵）

- ① 橋本雪蕉《松林山水人物図》絹本着彩 1865年 花巻市博物館
- ② 橋本雪蕉《初夏山水図》紙本着彩 1867年 花巻市博物館
- ③ 菊池黙堂《携書訪友図》紙本着彩 1895年 花巻市博物館
- ④ 菊池黙堂《洗硯魚谷図》紙本着彩 1888年 花巻市博物館
- ⑤ 菊池素香《山水図》絹本着彩 1920年個人
- ⑥ 菊池素香《聖人図》紙本着彩 制作年不詳 個人
- ⑦ 萬鉄五郎《冬景（雪道を行く男）》紙本着墨 1914年頃 萬鉄五郎記念美術館
- ⑧ 萬鉄五郎《秋雲飛天図》紙本着墨 1922年頃 萬鉄五郎記念美術館
- ⑨ 萬鉄五郎《扇面》紙本着墨 1922年頃 萬鉄五郎記念美術館
- ⑩ 萬鉄五郎《水のほとり》油彩・画布 1924年 萬鉄五郎記念美術館

萬鉄五郎（1885～1927）は、後期印象派や
フォーヴィスムの新思潮をいち早く取り入れ、明治
末から大正期を通じて前衛絵画の先頭に立ち日本美
術界を牽引した画家です。

しかし、彼が少年期に山水画を学び、基礎的な描
法を身につけていたことはあまり知られていません。
さらに、1919（大正8）年に神奈川県茅ヶ崎へ移
り住んでからは、南画（文人画）と呼ばれる日本の
伝統的な絵画技法とその哲学に自らの絵画表現との
一致点を見いだし、独特的筆致の洒脱な作品群を残
しています。

あらためて萬の南画の出発点に目を向けると、少
年時代に浅井応翠の『山水画譜』を模写したこと
や、通信教育機関である東京の「速成文学会」で
熱心に水墨画の基本描写を学んでいたことがわかつ
ています。さらに、地元絵師の菊池素香（1852～
1935）に萬少年が水墨画を習っていたことが伝わっ
ています。

素香は橋本雪蕉（1802～1877）に師事した
絵師で、師である雪蕉は、浦上春琴の流れをくむ南
画家として花巻や八戸で活躍し、多くの絵師を育て
ました。なかでも菊池黙堂（1835～1899）は
素香にも指導していた兄弟子であり、土沢を含む花
巻地域には、雪蕉、黙堂、素香、そして萬へとつな
がる地方南画の系譜をたどることができます。

本展では、萬鉄五郎が表現者として素養を育んだ
故郷の先人南画家から彼へと連なる地方の絵画文化
の系譜を辿るとともに、萬が南画と洋画との一致点
を見いだし、日本人ならではの独自の表現へと昇華
させていった表現性に内在する絵画観に迫ります。

第44回萬鉄五郎祭

【開催行事】

● 萬鉄五郎祭式典

○ 日時 5月4日 [土] 14時～14時30分

○ 萬鉄五郎祭茶会

○ 日時 4月14日 [日] 10時～15時

○ 会場 東和コミュニティセンター（花巻市東和町安俵653）

○ 参加費 二席 10,000円

○ 写生会

○ 日時 4月28日 [日] 9時～12時

○ 参加費 5,000円（幼児から一般まで）
参加者は作品をプリントしたエコバックを差し上げます。

○ 写生作品展示会

○ 日時 5月1日 [土] ～5月26日 [日]
○ 会場 花巻市立東和園青蘭ロビー（花巻市東和町安俵653）

○ 入館料 5月1日～5月26日 [日] 入場無料

○ 会場 萬鉄五郎記念美術館前

○ 入館料 5月1日～5月26日 [日] 入場無料

○ 会場 萬鉄五郎記念美術館「八丁上蔵ギャラリー」

萬鉄五郎記念美術館

T 028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地
TEL. 0198-42-4402 / FAX. 0198-42-4405

